

資料4

7/9  
(火)

## 事例報告

# 本人の言葉で 気づく本人視点

綾川町役場健康福祉課 (香川県)  
地域包括支援センター 認知症地域支援推進員  
川崎 孝至 (精神保健福祉士)

さぬきうどん発祥の地  
AYAGAWA

綾川町



至福の一杯を求めて  
うどんの聖地巡礼へ！

綾川町  
公式うどんガイドブック  
AYAGAWA  
Udon guidebook

ゆる旅の観光ガイドは >>>

# 本日、お話ししたいこと

1. 綾川町の概要と認知症施策の取組
2. 「本人の言葉」を聞く取組  
本人ミーティング
3. 「本人の言葉が通うあう」地域で
4. これから  
「続・本人の言葉を聞く取組」をめざして

# 1. 綾川町の概要

人口：23,121人 (令和6年4月1日現在)

高齢化率36.4% (旧小学校区別：30~54%)

日常生活圏域：1圏域 包括：直営1ヶ所

写真は  
スマイルあやがわ  
フォトコンテストの受  
賞作品等(作品紹  
介はスライド最後)

①



②



⑤



③



④



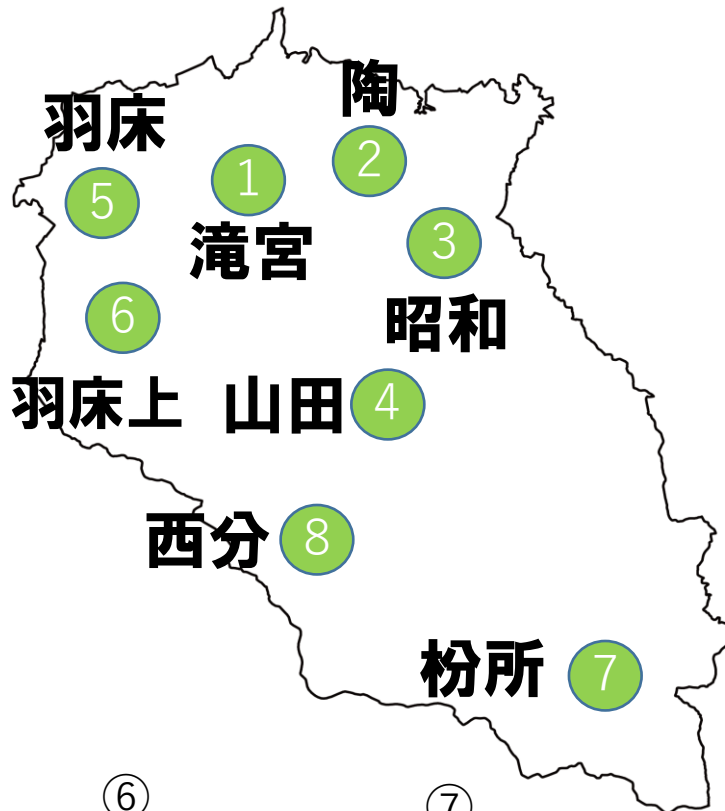
⑥



⑦



⑧



# 認知症になってもだいじょうぶな町をめざした取組

H18年度

H19年度

H20年度

H24年度

H25年度

H26年度

H27年度

H28年度

H29年度

H30年度

H31年度

コロナ禍後

コロナ

チームオレンジの横展開（講演・見学・朗読劇）  
休止していた活動の再開

認知症施策推進モデル事業（ひまわり畑）

認知症行方不明高齢者の事前登録開始

認知症初期集中支援チームの立ち上げ

育育広場（チームオレンジ）の立ち上げ

地区医師会と合同で認知症症例検討会開始  
**本人ミーティング（全国パイロット事業）**

認知症行方不明者等のメール配信事業

認知症高齢者等のGPS購入費補助事業  
脳の元気教室（1ヶ所）立ち上げ

ほっとか連とこ100歳体操（現在52ヶ所）

認知症ケアパスが完成

認知症サポート医による認知症相談開始

高齢者声かけ・見守りまちかどほっと歓事業

介護支援ボランティア（ポイント制）導入

認知症地域支援体制構築モデル事業  
（モットーは、無理なく楽しく息長く）

介護予防サポーター活動が始まる

介護予防サポーター養成講座  
（元気な高齢者が支え手に）

センター方式やパーソンセンタードケアに注目

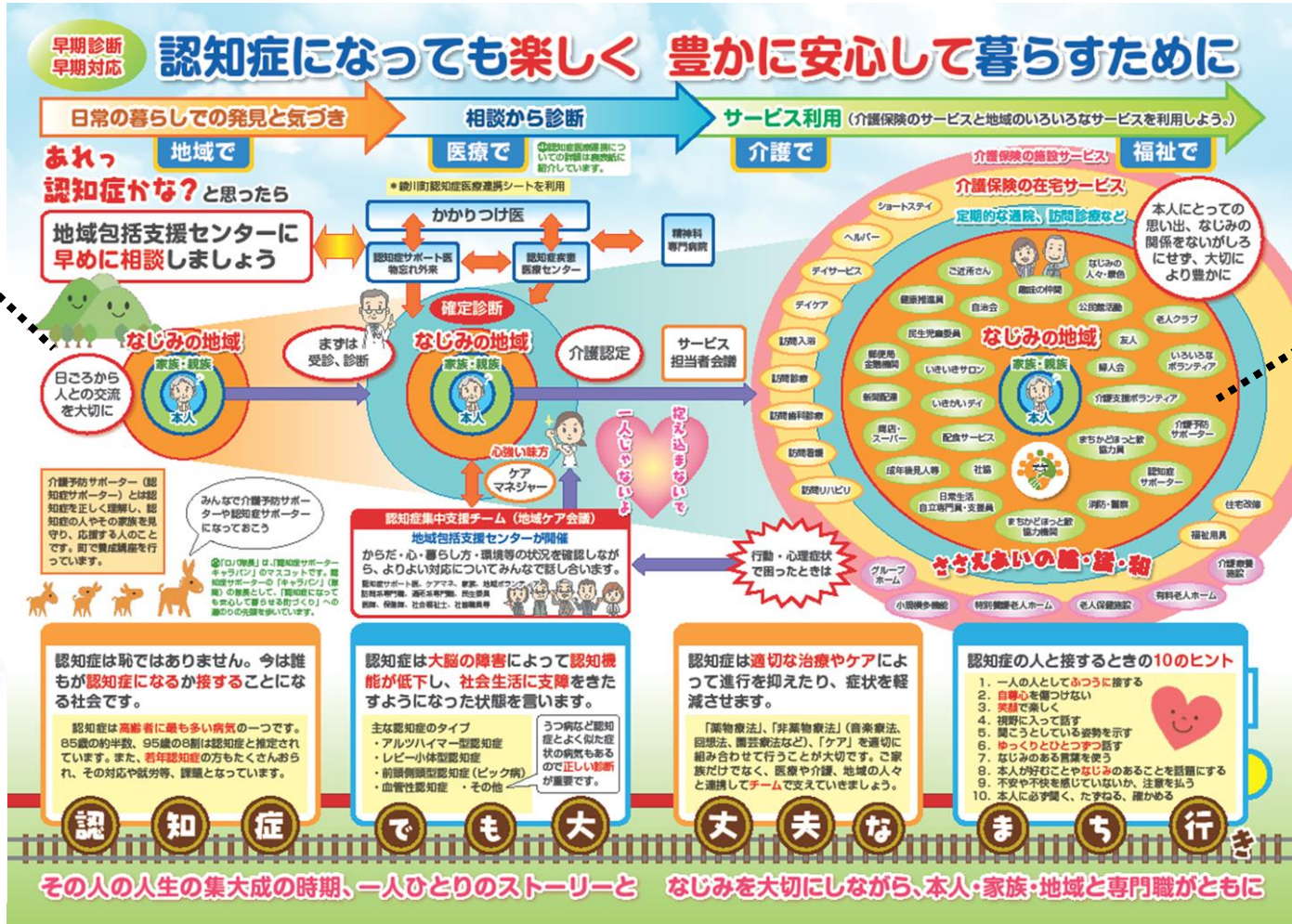
# 認知症になっても「だいじょうぶな町づくり」

## それは「なじみの地域」づくり

## 綾川町認知症ケアパス（H27作成）の特徴

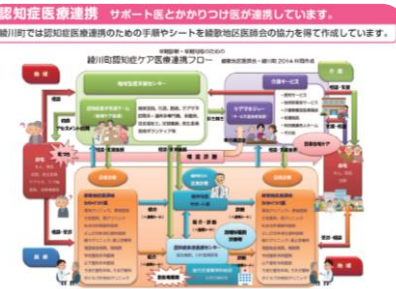
◎特徴1  
認知症になる前から、  
人との交流、とりわけ  
地域とのつながり作り  
を大切にする

具体的な提案  
介護予防サポーター  
や認知症サポーター  
になっておこう！



◎特徴2  
なじみの  
地域との  
つながり  
は、経過  
とともに広  
がっていく。

ご近所さん  
自治会  
趣味の仲間  
なじみの人々  
友人  
公民館活動  
ボランティア  
民生委員  
金融機関  
等々...



◎特徴3  
早期診断・早期対応のため、地区医師会と  
協同で認知症ケア医療連携フローを掲載

◎特徴4  
前向きなメッセージを発信。町内の  
専門職や住民の声を紹介

認知症になっても生きがいを持って生活  
できるんだなあ。  
勇気を持ってそっと見守り、寄り添って  
いこうと思うんだ。など

## 2. 「本人の言葉」を聞く取組

ー本人との出会いと本人ミーティングー

# 志度谷さんご夫妻の紹介



しどたに としゆき  
**志度谷 利幸さん** (日本認知症本人ワーキンググループ会員)

昭和24年 高松市生まれ 現在74歳

綾川町昭和地区の南かざし団地に妻と愛犬と暮らす

63歳で認知症と診断(若年性アルツハイマー型認知症)

66歳で閉業。閉業後は本人ミーティングに参加し、その後地域の仲間とともに「育育広場(後述)」の活動を行う。

令和2年度～かがわ認知症希望大使に就任

しどたに ひさみ  
**志度谷 久美さん**

夫の自営業の補佐とパート勤務をしながら子育てをしてきた。  
現在は、パート勤務と介護を両立中。

本人といっしょに家族として地域の活動に積極的に携わり、  
育育広場副リーダーや認知症キャラバン・メイトを務める



# 志度谷さんの経過



64歳 (H25)  
2013年

66歳 (H27)  
2015年

67歳 (H28)  
2016年

68歳 (H29)  
2017年

69歳 (H30)  
2018年

70歳 (H31)  
2019年

71歳 (R2)  
2020年

72歳 (R3)  
2021年

73歳 (R4)  
2022年

74歳 (R5)  
2023年

現在



現在も育育広場・卓球・散歩・ラジオ体操・100歳体操・いきいきサロン・脳の元氣教室・講演会（かがわ認知症希望大使）・介護保険サービス利用等の参加・活動を行っている

東京のフォーラムに出席

かがわ認知症希望大使の更新  
歩行がしづらい様子がみられる

言葉が出づらい様子がみられる

かがわ認知症希望大使に就任

活動仲間と勉強会（角先生）

令和元年夏・介護保険の申請

ケアマネジャーとの出会い  
デイサービスの利用  
GPSを持つ

育育広場が立ち上がる

男の料理教室、卓球、陶芸など参加  
仲間との出会い ↓ 妄想消失

**本人ミーティング**

10月包括支援センターに相談  
3月で仕事を辞める。6月に妄想出現

意識消失発作↓ペースメーカーを埋設

車の運転をやめる（国の方針も）

若年性アルツハイマー型認知症と診断  
63歳のとき

（妻、団地のラジオ体操に参加）

経過がたっても精力的に参加（活躍の在り方も変化）

診断後も仕事を継続。退職後は地域活動に精力的に参加（活躍）



# 志度谷さんご夫妻と包括の出会い

団地内のラジオ体操は、志度谷さんが認知症と診断される数か月前から始まったもの



奥さんは体操が好きで自然に参加していた



ある日、夫の症状のことを三井さんに相談した。すると「包括に相談を」と勧められ、その日に行った



H19年のいきいきサロン立ち上げから、地域の見守り活動、ラジオ体操、ほっとか連とこ100歳体操や育育広場等、高齢者が安心して暮らせる活動を続けて来られている古市知子民生委員さん（左）と三井雪子さん。

# 本人ミーティング

H28年度～

実施の経緯：H28年度厚生労働省の研究事業のなかで  
全国10地域のパイロット地域の1つとして実施

## 本人ミーティングの良いところ①

本人同士が出会い、話し合うこと。  
本人にとって豊かな出会い、豊かな会話の時間となる。



本人といっしょに企画会議

## 本人ミーティングの良いところ②

本人が話す言葉やその姿を見聞きすることで、参加者の理解が深まること。



当日：本人とパートナーのテーブル

# 本人ミーティング (企画会議等を含む) での言葉

あのーどういったらいいんですかね。人の言葉、**ちょっとの言葉がものすごく堪えます。**  
「ちょっとぼーっとしとるのお」って言うのが、ぴっと聞こえたときには、**それがものすごい後で  
きます。そういう病気**なんですよ。

自分が一番ショックなのは、若いと思っていただけで痴呆になったときは**ショック**だった。**物の考え方を  
変えて、慣れようと思った。**ちょっとやそっとぼけるのは**年もあるから、慣れようと思った。**

認知症と伝えて、おちよくる人もいて腹が立ったけど、それも続けると、**周りも慣れてくる。大した  
ことないかと分かってくれる。**本当に嫌なことを言うのは2, 3人かな。

集まって話すなら、**それぞれ出来る事があるのだから何かしたい。何が出来るかを考えたい。**  
**同じ病気の方達といろいろ話したい。気を張らなくて良いし、話をしているうちに何か思いつくかも。**

あんまり隠したり自分でどうこうするよりも、自分は認知症やと言い聞かせて、慣れたらちょっと楽になるんじゃないかって。**今までもっともっと不安だった。慣れたらだいぶ違って来るんですね。**

**集まってくれたら安心する。今日みたいだったらええんちゃう。みんなで話できた。あまり取り繕わ  
なくていいからね。**

本人の言葉で初めて、本人の感じ方や希望に気づく  
「自分の中の偏見・理解不足」に気づく

### 3. 「本人の言葉が通いあう」地域のなかで



## 本人ミーティングの思いもつながって生まれた

いくいくひろば

# 「育育広場」がある南かざし団地

- ①300戸の戸建住宅団地のなかで、平成19年から「いきいきサロン・夢」が立ち上がる
- ②その運営ボランティアメンバーの多くが介護予防サポーターの委嘱者
- ③包括職員が、このメンバーを中心に介護予防サポーター活動やいきいきサロン、民生委員活動、声かけ見守り事業のモデル活動を通じて、継続的かつ温かな血が通うお付き合い <sup>13</sup>

いくいくひろば

# 育育広場の設立（概要）

本人の声を聞くことができる場。  
本人の声を日常的に聞いている家族や  
地域の人たちから聞くことができる場

活動開始日	平成29年5月22日	活動場所	子育て支援施設きらり (旧昭和北保育所) ※メンバーの子どもが通った思い出の園舎
メンバーの属性	南かざし団地自治会の住民等 ※約300世帯 団地の高齢化率：約50% (町全体約36%)	活動時間	毎週火曜日午前9時～11時
メンバー	現 20名 (延参加実人数 24名) ※メンバーは全員が団塊の世代 ※認知症の本人／延4名	運営	メンバーによる自主運営 ※リーダー、副リーダー1名 ※包括は後方支援
目的	認知症になっても住み慣れた地域で、楽しく生きがいを持ちながら、安心して暮らし続けるための場所作りと世代交流の在り方を模索する場		
主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>①菜園の管理</li> <li>②特技を活かした社会貢献活動</li> <li>③定例会</li> <li>④世代間交流活動</li> <li>⑤本人発信等</li> </ul>		



※H31年度～チームオレンジとして

# 本人の言葉が通いあう地域のなかで



本人

望む暮らし

症状のこと

仲間のこと

本人の  
望む暮らし  
(に近いかも)

関わるなかで  
深まる理解

日々の見守り・  
声かけ・ちょっ  
とした手助け

本人の望む暮らし  
を応援。  
いっしょに考え続  
けるパートナーへ



地域の  
皆さん

望む暮らし

家での本人の  
言葉や様子

家族の思い



家族

【気づき】本人の言葉が通い合うと  
理解がつながる。  
声かけや見守りがつながる。  
お互いさまの明るい気持ち・安心がつながる。

## 4. これから

「続・本人の言葉を聞く取組」をめざして

- ・ 本人の言葉を聞くことを普段から身近に
- ・ 経過が進んでも聞くことを続ける



# 本人の言葉を聞くことを普段から身近に

さまざまな場面で多様な人とともに

どんな会話が生まれますか？

- 本人ミーティング
- 地域の通いの場で
  - ・介護予防サポーター活動
  - ・育育広場
  - ・ほっとか連とこ
  - 100歳体操
  - ・いきいきサロン
  - ・元気でやりよる会
  - ・カフェ
  - ・びなんかずらの会
  - ・集いの場
  - ・ラジオ体操
  - ・安心広場
- 日々の暮らしのなかで
  - ・レクリエーション
  - ・公園
  - ・散歩しながら
  - ・移動中に
  - ・イベント
  - ・食事会
  - ・本人の家
  - ・手紙のやりとり
- 個別支援の現場で
  - ・窓口
  - ・訪問
  - ・面談
- 地域ケア会議で
  - ・個別支援会議
  - ・地域の見守りネットワーク会議

等々



- ・何気ない会話のなかで
- ・なじみの仲間と
- ・なじみの場所で
- ・二人からでも

認知症地域支援推進員として  
どの場面でも本人の声が地域の人や  
関係者との間に「通い合う」ことを大切に。

# 経過が進んでも、聞くことを続ける

## ご家族が丁寧に本人の言葉を聞かれたもの（令和5年1月30日）

育育広場は自由にさせてくれる。  
何もしなくてもいいのが良い。  
何もしなくても怒られんのがいい。  
ゲームも楽しい。  
おやつも嬉しい。  
皆がやさしいんがええ！

やっぱり卓球が好きや。  
歩くんは元気でいたいんで  
歩くんや

認知症は自分で自分をいじめ  
るんや、それが分かって良  
かったけれど、今、思った事を  
忘れる。人に何か聞かれても  
言おうとして忘れてつらい。  
※デイサービスではそういうと  
き、頭を抱えている様子もある

妻が仕事の日にはデイサービスに  
行っている。迎えに来てくれて  
皆やさしい。行っている時、どこ  
にいるのか分からないことがある  
んがいかん。知っている人に声  
をかけられて少し安心する。  
※どこにいるか分からないとき  
「帰らないといかん」と思っ  
てしま  
う。

近くに居る人は(自分のこと  
を)よく知ってくれているみた  
いで、いろいろ助けてくれる。  
自分も頑張らないといかんと  
思う。  
※ラジオ体操やウォーキングに参  
加していると感じるのだそう。

コロナで息子が帰って来れん  
くなった代わりに、えがお(包  
括)のあの人気が気に掛けてく  
れている。  
顔見るだけでも安心する。  
色々話しておもしろい。

かがわ認知症希望大使の紹介のため、妻の久美さんが  
毎日少しずつ聞きながら作られたものです。「本人の言葉を、私の  
言葉を加えずにつくりました」とのメッセージを頂きました。

# まとめ

## ①本人に聞くことが一番大切

- ・本人の言葉で、本人の思いを初めて知ることができる。  
（自分の気づき、理解不足、業務の振り返りにもなる）
- ・経過が進んでも、本人の思いはある。必ずある。
- ・もしかしたらその日、その時間は話せないかもしれないがその一瞬で決めつけないようにしたい。
- ・言葉が出なくても、目や表情で伝わることもある。そのことをなじみの人と話しあうと理解が深まることも多い。

## ②本人の言葉をみんなで聞き、そのことについて話をする

- ・本人の言葉が家族、地域の人、関係者に「通うこと」で、本人の望む暮らしに近づくのではないかと感じている。
- ※本人と家族となじみの人たちが話せる場ができると良いのかも

（推測）本人が出会いから今まで変わらずに思っているのではないかと  
思うこと「気を張らずに、取り繕わずに話したい」

# 使用写真の紹介

(住まいるあやがわフォトコンテスト受賞作品)

	開催	賞	作品名	撮影者
1	第6回	優秀賞	五年ぶりの賑わい	大池孝志さん
2	第6回	優秀賞	赤光の朝焼け	三好英運さん
3	第6回	入選	いつもの散歩道	飯間弘光さん
4	第5回	入選	お田植まつり	高畠重則さん
5	第6回	入選	おさんぽ雲と羽床富士	谷口浩之さん
7	第6回	優秀賞	秋の柏原溪谷	三井秀範さん
8	第2回	入選	名木開花	高木正澄さん